



4:1 その後、イスラエル人はまた、主の目の前に悪を行なった。エフデは死んでいた。  
 4:2 それで、主はハツォルで治めていたカナンの王ヤビンの手に彼ら売り渡した。ヤビンの將軍はシセラで、彼はハロシエテ・ハゴイムに住んでいた。  
 4:3 彼は鉄の戦車九百両を持ち、そのうえ二十年の間、イスラエル人をひどく圧迫したので、イスラエル人は主に叫び求めた。  
 4:4 そのころ、ラビドテの妻で女預言者デボラがイスラエルをさばいていた。  
 4:5 彼女はエフライムの山地のラマとベテルとの間にあるデボラのなつめやしの木の下にいつもすわっていたので、イスラエル人は彼女のところに上って来て、さばきを受けた。  
 4:6 あるとき、デボラは使いを送って、ナフタリのケデシュからアビノアムの子バラクを呼び寄せ、彼に言った。「イスラエルの神、主はこう命じられたではありませんか。『タボル山に進軍せよ。ナフタリ族とゼブルン族のうちから一万を取れ。』」  
 4:7 わたしはヤビンの將軍シセラとその戦車と大軍とをキション川のあなたのところに引き寄せ、彼をあなたの手に渡す。』」  
 4:8 バラクは彼女に言った。「もしあなたが私と一緒に行ってくださいなら、行きましょう。しかし、もしあなたが私と一緒に行ってくださいなら、行きません。」  
 4:9 そこでデボラは言った。「私は必ずあなたと一緒に行きます。けれども、あなたが行くこととしている道では、あなたは光栄を得ることはできません。主はシセラをひとりの女の手売り渡されるからです。」こうし

て、デボラは立ってバラクといっしょにケデシュへ行った。  
 4:10 バラクはゼブルンとナフタリをケデシュに呼び集め、一万人を引き連れて上った。デボラも彼といっしょに上った。

パウロは「私は、女が教えたり男を支配したりすることを許しません。…アダムは惑わされなかったが、女は惑わされてしまい、あやまちを犯しました。」と、テモテに書き送っています。確かに2000年前の世界では女性が指導者であることは社会通念上受け入れがたいことであり、一般的な特徴としては女性よりも男性の方が指導者に向いていると言えるでしょう。

ただしそれは一般的な特徴であって、女性が絶対に指導者になってはならない、または絶対にできないというものではありません。この箇所は神様が女性の指導者を絶対に認めないわけではないことを示しています。

デボラは女性であって、当時もまた指導者としては非常に特殊であり、また不利であることは否めません。しかし、主の御心を求めて献身しているということこそが重要なものであって、男性でさえあれば主に献身していなくても、女性の上になるだということではありません。

女性だけでなく、一般的に「指導者には向かない」と思われるような立場の人でも、主の召しがあれば表に立つ決断も必要です。

デボラは戦場に赴きました。それは命の危険にさらされることです。目立たない立場であっても安心なところばかり選ばないで、主のために前線に出て行きましょう。

① 神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

② どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③ 生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④ この世にあって何を実践しますか？

